早川町応援団獲得マガジン

やまたらけ

YAMADARAKE

FEBRUARY
No. 75
2016

大雪を乗り越えて

2014年の2月14日。早川町を観測史上初と言われる大雪が襲った。多い所で1m80cmを超える雪は交通網を分断し、全町孤立という事態を引き起こした。多くの方が、当初家から出るのもままならないという状況。さらに、雪崩も全町的に発生し、一部地域で停電や断水の引き金となった。メディアでも、この状況を連日を全国放送で伝えていた。

近年の異常気象は、台風、猛暑、大雪と様々な「史上初」を引き起こしている。いつ何時、予想だにしない大災害が起こるか分からない。そんな中で、最終的に頼れるのは隣近所でどれだけ一致団結して助け合えるかだ。

これまでの早川町の災害を振り返ると、戦前には集落全体を焼き尽すような大火災や、昭和34年、57年の台風を始めとする風水害にしばしば見舞われている。近年では、土砂崩落による県道の寸断で、集落、地区の長期孤立なども見られた。ただ、雪に関しては、短期的、部分的な孤立は毎年何度かあったものの、今回のように長期に渡る全町的な孤立ははじめての経験だった。

今号では、この大雪に、町は、地域は、建設会社はどのように立ち向かったのかを、雨畑地域を中心に記録に残しておきたいと思う。（鹿島健利）

▲硯島地区細野集落の様子

早川町史上初の大雪 その時集落、役場、建設業者は

朝6時から降り出した雪は夕方になっても止まなかった。夕方には停電も発生したが、「夜には雪も止み、しばらくすれば停電も復旧するだろう」という軽い気持ちもあったと語るのは、老平集落の天野元さん。

しかし、朝になるとびっくり。胸位の高さまで雪が、一面に積もっていた。一週間前に降った雪も残っていたため、2mを越す所もあったという。停電の復旧も未定。天野さんはすぐに雪かきに取りかかった。しかし、雪が尋常な量ではない。いつもの何倍もの時間がかかった。

家では、夜はろうそくで灯りを確保し、ペットボトルにお湯を入れた簡易湯たんぽで寒さをしのいだ。ただ、ガスはプロパンで使えたし、灯油もタンクに蓄えがあった。食料も普段からまとめ買いをしていて蓄えがあった。

一方役場では、予想をはるかに超える雪の降り方に緊急体制を敷いた。町長は出張を取りやめ、職員を庁舎に招集する一方、町内各地にも待機させ、各地域の状況が分かるようにした。午後には車も通行不能になり、甲府から約40kmもの雪道を徒歩で帰って来た職員もいた。経験のない雪を前に、役場では自衛隊に派遣要請を決断。16日には正式な依頼に至った。自衛隊も、早川町の状況を重く見、県内最多の340人を派遣した。

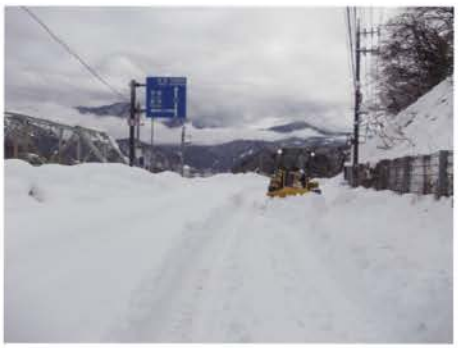
役場でまず取りかかったのは安否確認・情報収集だった。各集落の区長や待機させた職員などを通して、住民の無事を確認する。連絡が取れない場合は、雪の中を歩いて確認に向かったという。情報を集める中で、雨畑地区が停電している事が分かった。県道雨畑大島線内の倒木が電線を切断したのが原因だ。「一日も早く道の雪を除去して電気を復旧させてやりたい」の一心だったという。

雨畑大島線の管理を任されている早邦建設。これまでも「大雪」と呼ばれる雪は何度も乗り越えてきた。しかし今回は「はじめて心が折れそうになった」と、専務の望月伸一郎さんは語る。道が通行不能で、除雪にあたる社員が重機がある会社まで来られない。そのため、会社付近に住む社員2名で、国道52号まで四駆車がやっと通れる程の道を突貫でつくった。これで社員が出社できるようになり、16日から本格的な除雪に取りかかれた。近隣の建設業者の協力も得ながら、南アルプス公園線をかき進め、午後ようやく雨畑大島線にたどり着いた。

老平では、手作業で道の雪かきを続ける事2日目。いつも通り他の人も雪をかいていると信じていたが、かき進めるうちに一人二人と顔が見え始め一安心したと言う。女性を含む50～60代の「若手」7、8人が集まれた。この様な緊急事態には、男女問わず動ける人が動く。しかし、安心したのも束の間、今度は水が出なくなった。水源近

▲硯島地区本村の見神の滝付近。雪崩もあり、鳥居がすっぽりと雪に埋まってしまっている。

▲早川町役場前の県道の様子。積雪は120cm。



▲県道南アルプス公園線（早川橋付近）で作業する早邦建設の重機。本来なら管轄外だが、早川町内の除雪をいち早く進めるため県と交渉しことにあたった。

くの水道管が雪崩で流されたのだ。

除雪に奮闘 建設会社の活躍

老平と同じ雨畑の本村集落から除雪を進めていた大昭建設社長の望月千昭さんにもお話を伺った。

大雪の翌日、朝起きると一面銀世界になっていた。昨晩は立ち往生した車から県外のハンター2名を救出したものの、ここまで降るとは予想していなかった。まず頭に浮かんだのは近所の高齢者の事だった。停電していた事もあって、暖を取れているか気がかりだった。

奥さんが安否確認に雪をかき分け回ったものの、思うように身動きが取れない。前日自宅まで持って来ていた重機で、朝から息子さんと2人で除雪を始めた。雪の捨て場が少なかったため、集落の人に交渉し、雪を畑に捨てながら作業を進めた。3日かけて集落内、集落からヴィラ雨畑までの道を除雪、集落の外れにヘリポートをつくった。夜中の3時頃まで作業を続けたが、暗さと雪で道が分からず、脱輪の恐れがあったため、軽トラに投光器を載せての作業だった。

ヘリポートができた段階で、本村に関しては少し安心できたという。雨畑

▲停電の早期復旧に向け、県道雨畑大島線の除雪作業は、夜も休まず続けられた。

▲馬場～老平間。雪崩が起こってもおかしくない状況の中で、危険を顧みず除雪を続けるオペレーター。

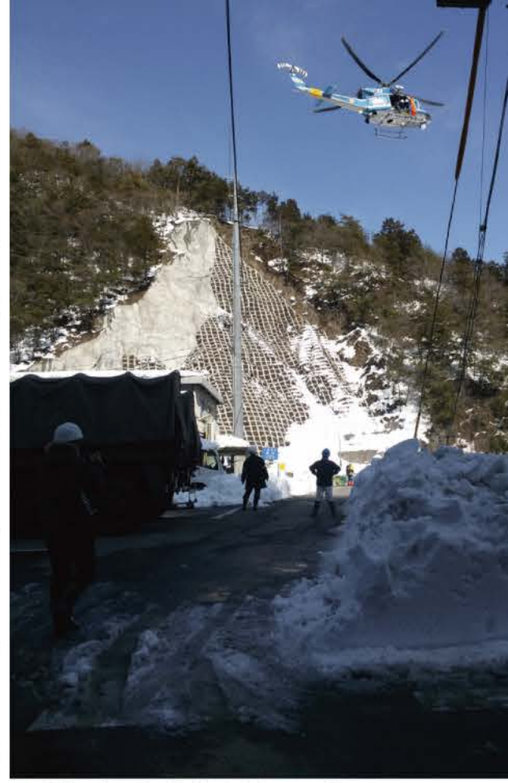
▲支援に来てくれた自衛隊。24時間態勢で、重機が入らない集落の孤立解消に向け、人力による除雪作業を行ってくれた。

は、過去にも孤立を経験した地域。食料などを備蓄している人は多いが、急病人が出た時にはどうにもならない。ヘリの離発着が可能になった事でその不安を解消できた。

その頃早邦建設は雨畑大島線の除雪に悪戦苦闘していた。道幅が狭く、山側は急斜面。何カ所も雪崩が発生していた。いつ雪崩が起きるか分からない中、雨畑の孤立・停電を何とかしてやりたいという想いで作業を進めた。しかし、いくつもの重機を駆使しても少しずつしか進まない。1日300mくらいしか進まない事もあり、無力さを痛感したという。

夜を徹しての作業を続け、3日後にようやく、停電の原因となった倒木現場にたどり着いた。早邦建設、役場からも電力会社に無理を言って夜遅くまで作業をしてもらい、その日のうちに停電が復旧した。反対方向から大昭建設の重機も見えてきて、「これで何とか孤立を解消させる事はできた」と一息つけた。

その後、道幅も広げる等道路の安全確保、奥地の集落の除雪など行い、最終的には3月半ば頃まで作業は続いたという。



▲ 物資を山の上の集落に運ぶヘリコプター。早川町役場横の栄代橋上でホバリングし、垂らしたロープに物資を取り付ける。

電気のありがたさを改めて感じたと語るのは望月千昭さん。重機への給油には電動式の機材が必要だった。電話も復活、外部との連絡も取れるようになった。

そして、その日のうちに馬場～老平間の作業に取りかかった。事前の情報で老平の断水を知っていた事もあり、早く道を空けてあげたい想いでいっぱいだった。この道は細く、雪崩の危険もあった。重機3台がかりの作業でもなかなか進まず、日が暮れてもできる限り作業をした。

徐々に復旧に向かう集落

老平では、皆で相談し合って水の確保に奔走していた。湧水を持つ家の水を分け合い、高齢者の家へは若手が配った。しかし水量が少ないため、飲料水以外は天野さんが即席で考えた雪どけ水を貯める装置(雨樋の途中を外して、漬け物用の樽を設置)を皆で用意して凌いだ。これで、しばらくは生き延びられる体制が整った。それから数日経った頃、遠くからゴゴゴゴという音が聞こえてきた。待ちに待った重機の音だった。

普通の雪であれば重機1台でも半日あれば除雪できる道だが、大昭建設が老平にたどり着いたのは3日後の事。老平に着いた時のおばあちゃん達の喜ぶ顔が何より嬉しかった。それから、2日かけて集落内や周辺の除雪を行った。

道が通るようになって、老平集落も徐々に復旧に向かう。水や支援物資も入ってくるようになった。役場では安否確認の後、物資の輸送を行っていた。町外からの支援物資を仕分け、行ける所から順に送った。急病人が出た時はヘリも要請した。大雪当初から、役場に詰めていた職員の多くは不休で作業を進めた。担当は「とにかく無我夢中」だったとその時の様子を振り返る。

後日談として、千昭さんはこの時の教訓から防災士の資格取得や、救命講習を受講し、災害時の自助、共助、協働の大切さを改めて学んだそう。役場では各地区に除雪機を配備、小型の重機も購入した。大雪の際の義援金を活用した。

結果的に今回の大雪では、各集落不便は強いられたが、一人の犠牲者も出さずに済んだ。その事が何よりだったと役場担当者は振り返る。

大雪で浮き彫りになった相互扶助の価値

集落が、町が、建設会社が、数々の試練に立ち向かい大雪を乗り越えた。今回、全てをお伝えすることはできないが、町内各地でそれぞれの物語があった。その根底にあったのは、相互扶助と「何とかしてやりたい」という思いやりの気持ちだったと思う。それは、普段顔を合わせる集落内はもとより、業者も、役場職員も含め町全体で顔と顔とが見える関係があることの賜物であろう。

山あいの不便な地域だからこそ、また町が合併せずに歩んできたからこそ、そして昔ながらの集落が受け継がれてきたからこそ、この相互扶助は育まれ、維持されてきた。現代社会が失いつつある相互扶助の精神。早川では、大切なライフラインとして、今もしっかりと息づいている。

◀ 上流研では、雪かきボランティアを受け入れた。上は本村、中は老平、下は戸川集落での作業風景。ボランティアには、北は青森、南は沖縄から延べ122名が訪れ、5日間で12集落の雪をかいた。この他にも、早川に心を寄せる町外の方々から、たくさんの災害見舞金や支援物資が届けられたという。自衛隊、町外の建設業者の支援等も含め、様々な方に助けられ、そのつながりの大切さを実感ンした今回の大雪であった。

早川旬の直送便

http://shop.joryuken.net/

上記ウェブサイトでは、他の商品も販売しております。
会員割引も適用できますので、ぜひご活用下さい。

南アルプスふるさと活性化財団が誇る手作り食肉製品は、時間を掛けて熟成された美味しさが自慢の看板商品です。大手メーカーの製品とは違って着色料は一切使用しておらず、相当な手間をかけ、丁寧に手作業で作られています。今回、やまだらけ読者の方だけに特別パッケージでご提供することになりました。この機会に是非お試し下さい。

「バラベーコンブロック」特別パック

山菜祭り、そば祭り等のイベント時大人気なのがベーコン焼き。通常はステーキベーコンとしてパッケージ販売されていますが、今回は特別にブロック状態でパッケージングします。お好みの厚さに切り分け、お召し上がり下さい。

内容／バラベーコンブロック 1パック約 750g
価格／一般 3,100 円、会員 2,790 円＋送料
発送／注文順にゆうパックチルド便で発送
受付／4月上旬まで

「ロースハムブロック」特別パック

通常は薄くスライスして販売されている手作りハムを、今回はステーキハムとしても使って頂けるよう、ブロック状態でパッケージングします。お好みの厚さに切り分け、軽く焼いても、そのままでも、どちらも美味しくお召し上がり頂けます。

内容／ロースハムブロック 1パック約 350g
価格／一般 2,300 円、会員 2,070 円＋送料
発送／注文順にゆうパックチルド便で発送
受付／4月上旬まで

「フランクフルト」特別増量パック

複数のスパイスとハーブミックスが効いたフランクフルトも、バラベーコンと並んでイベント時に人気のある商品です。今回は特別増量 10 本入りでパッケージングします。ホームパーティーやバーベキューにご利用下さい。

内容／フランクフルト 10 本入り 約 650g
価格／一般 2,500 円、会員 2,250 円＋送料
発送／注文順にゆうパックチルド便で発送
受付／4月上旬まで

「ウインナー」特別増量パック

ハーブこそ入っていないものの、使用しているスパイスの種類はフランクフルトよりも多いウインナー。腸詰めする作業も機械ではなく、職人技の手作業で行っています。通常よりも多い特別増量パックでのご提供となりますので、是非お試しください。

内容／ウインナー 10 本入り 約 230g
価格／一般 1,200 円、会員 1,080 円＋送料
発送／注文順にゆうパックチルド便で発送
受付／4月上旬まで

会員価格は、早川サポーターズクラブ、及び日本上流文化圏研究所の会員に適用されます。

【ご注文】NPO 法人 日本上流文化圏研究所(早川サポーターズクラブ事務局、やまだらけ編集部)
TEL. 0556-45-2160(9:00～17:30)　FAX. 0556-45-2268　E-mail shop@jorvuken.net
注文者氏名、住所、電話番号、お送り先氏名、住所、電話番号、商品名、数量をご連絡下さい。ファックス、メールの場合、折り返しご連絡いたします。3日が経過しても連絡がない場合は、お手数ですが電話でお問合せください。支払いは、商品と一緒に請求書をお送りしますので、指定の金融機関へお振込みください。

2014年6月より、早川旬の直送便(本紙上及び、インターネット上の直送便サイトでの物産販売)は、早川町黒柱の「たつみや」が実施しております。商品の発送元、代金の入金先、サイト上の注文先が、「たつみや」となりますのでご了承下さい。なお、本紙上で紹介した物産に関する電話、FAX、メールでのご注文先は、引き続き事務局となります。

送料の目安：ゆうパックチルド便の場合、60サイズまで県内が 775 円、東北～関西が 827 円、中国、四国が 1,146 円、北海道が 1,249 円、九州が 1,351 円、沖縄が 1,454 円となります。正確な送料は、受注後、こちらからお知らせいたします。

2/27-28 山里の暮らし体験ツアー 炭焼きに挑戦！

かつて、町のあちこちで盛んに炭焼きがおこなわれていた山里、早川町で、炭焼きに挑戦してみませんか？

窯に炭の原料となる木を入れる「窯入れ」や、完成した炭を取り出す「窯出し」などを体験します。講師は地域の方に聞き取りをしながら様々な炭窯で炭焼きをされてきた、NPO法人山守会の小倉さん。かつての炭焼き窯の跡の見学や炭火を囲んで小倉さんとの交流会もあります。完成した炭は皆様のお手元にお届けします。

日　程／2016年2月27日（土）～2月28日（日）の1泊2日
対　象／中学生以上
参加費／大人14,000円/名
※早川サポーターズクラブ会員は750円引き！
定　員／16名
※2月24日（水）までに要申込
（定員になり次第締切）

←昨年度のツアーの様子。
炭窯の前で記念撮影！

宿泊場所はいずれも早川町営ヘルシー美里です。

問い合わせ・申し込み先「南アルプス生態邑／ヘルシー美里」
TEL：0556-48-2621、FAX：0556-48-2622、E-mail：info@hayakawa-eco.com
※イベントの詳細は以下参照　http://www.hayakawa-eco.com/

3/2-31 冬のナイトハイクプラン 野生動物を探そう！

自然豊かな早川町で、ガイドと一緒にナイトサファリに出かけましょう！

夜の森をサーチライトで照らして、生きものを探します。車の中からの観察が中心なので、夜でも安心してご参加いただけます。小さなお子様も一緒にご参加いただけます。ニホンジカなどの野生動物に出会えるかも!?

ボクたちに
会いに来てね！

日　程／2016年3月2日（水）～3月31日（木）
※期間中のお好きな1泊
対　象／制限なし（中学生以下は保護者同伴）
参加費／大人：7,500円、小学生：6,800円（どちらも1泊2食付）
※サポーターズクラブ会員は大人750円、小学生680円引き！
定　員／各日定員９名
※３日前までに
要申込（定員になり次第締切）

動物を探しに、
レッツゴー！

豪華賞品？が当たる やまだらけクイズ！54

問：2014年２月14～15日にかけての大雪で、早川町の最北・奈良田集落では、どのくらいの積雪があったでしょう。

答：1，80cm
2，180cm
3，280cm

正解者の中から抽選で１名様に、奈良田集落の「寒ざらし大根」をプレゼント！締切は2016年３月15日（消印有効）です。

※専用の回答用はがきをお持ちでない方は、官製はがきに回答と。お名前、ご住所、電話番号をご記入の上、お送り頂いても構いません！

前回のクイズの正解は、２の「ローヤルゼリー」でした。抽選の結果、名倉順子さん（笛吹市）、中村清子さん（水戸市）が当選しました！おめでとうございます！

早川町に子育て移住しませんか？

3/12 「親子で田舎暮らしセミナー」東京で開催！

田舎で子育てをしたいという方々の移住が増えている早川町。その暮らしの良いところ、大変なところ、ありのままをご紹介。疑問にも細かい所までお答えします。田舎で子育てをお考えの方必見です！

日時／平成28年３月１２日（土）17:00～19:00
場所／ふるさと回帰支援センター
東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館６F

問い合わせ・申し込み先
「NPO法人日本上流研文化圏研究所」
電話：0556-45-2160

早川町役場よりお知らせ

築200年・古民家カフェ鍵屋 こだわりランチとスイーツで、ゆったりタイム！

昨年10月にオープンした奈良田の鍵屋より、早川町産の素材にこだわったランチやスイーツなど、メニューの一部をご紹介します。４月以降は、月替わりで新メニューを展開していきます。お楽しみに！

メニュー

町内の腕利き猟師さんの獲った良質な鹿肉を、相性のいいトマトで煮込んだ**「鹿肉のトマト煮」**1,300円（左）

町の特産品・白鳳味噌をもちもちの生パスタと絡めた**「白鳳味噌と鶏肉の生パスタ」**1,200円（左下）

「日替わりのシフォンケーキ」。下写真は、風味豊かな白鳳味噌とエゴマのシフォンとコーヒーセット（700円）

３月中に落語イベントも開催予定！詳細は鍵屋までお問い合わせください。

問い合わせ先
「古民家カフェ鍵屋」
電話 / FAX：0556-20-5556
営業時間10時-16時(冬季 15時まで)
水曜定休（祝日の場合は翌木曜）

早川町観光協会よりお知らせ

3/12-13 早川町観光協会が、今年も「湘南江の島春まつり」に出店！

藤沢市観光協会と早川町観光協会の交流の一環として、今年も「湘南江の島 春まつり」に出展します。早川特産の手作りベーコンをはじめ、生椎茸や観光物産推奨品の展示販売（その場で食べられるものも有り）を行う予定です！

江の島で、早川町を感じられるまたとないチャンス。大勢の方のお越しをお待ちしております！

期間／2016年3月12日(土)・13日(日)
※12日は10時～ 16時、13日は10時～ 15時の出展を予定しています。
場所／江の島北緑地広場
※祭り全体の詳細は藤沢市観光協会のHPをご参照ください。
http://www.fujisawa-kanko.jp

問い合わせ先「早川町観光協会」
電話：0556-48-8633

ENEOS
浜田屋商店
電話 0556-48-2311

早川町で感動体験を・・・
南アルプス生態邑
光源の里温泉　ヘルシー美里
南アルプス邑野鳥公園
ご予約・お問い合わせ
TEL/0556−48−2621
http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/

霊峰七面山の登山口であなたの旅を支える
株式会社 俵屋観光 バス ジャンボタクシー
有限会社 俵屋旅館 宿泊 宴会 法事などに
〒409-2732
山梨県南巨摩郡早川町高住 621
電話 0556-45-2500

生命保険、損害保険のことなら
株式会社 ・さいとうエージェンシー
tel.055-280-3360　fax.055-280-3361
自動車販売、オートリース、レンタカーのことなら
有限会社 S・T・E・P
tel.055-280-3350
sun life
〒400-0422 山梨県南アルプス市荊沢 1356-1

防災用品
非常用アルファ米・保存水・発電機
簡易トイレ・防災用毛布・テント等
オフィス事務機(有)
〒409-3244
山梨県西八代郡市川三郷町岩間 2077
TEL.0556-32-1003　FAX.0556-32-1004

南アルプス街道の交通安全と
清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに
地域社会の発展に貢献する事を目指します。
早川砂利協同組合
理事長　井上聰一郎
山梨県南巨摩郡早川町小縄 26
電話 0556-45-2450

待ちわびた物資は悪路を越えて

（昭和34年、三里地区栃ノ木橋付近にて撮影）

写真提供：平林謙一氏（身延町）

この写真は台風直後に孤立した西山地区へ、物資を運んだときに撮影されたもの。被害を与えたのは1959年の台風7号。早川流域で総降水量500mm以上を記録し、西山地区だけでなく、早川町全体に大きな被害をもたらした。今でも会話の中で度々耳にする、町民にとって忘れられない記憶だ。

荷を背負子に乗せているのは西山地区で商店や旅館を経営していた人達。当時は電源開発でにぎわい、商店が11軒ほどあったそうだ。やっと荷物が届いたためか、左下の女性には笑顔が見られる。

荷を運んだのは身延町飯富で菓子屋を営む木曽屋。自宅も床下浸水の被害を受けたが、ラジオで西山地区が孤立した事を知り、次の日には注文を取りに出向いたという。飯富地区の商店は早川町と関わりが深く、災害時にはすぐに出向いて対応していたようだ。

増水して県道が流されたため、栃ノ木橋までしか車が通れなかったという。橋までの道中も土砂で埋まり、時に荷を落とすほどガタガタの道無き道を行った。商売とはいえ大変な作業だった事だろう。

この写真のわずか1ヶ月後にはさらに巨大な台風「伊勢湾台風」が直撃する。度重なる災害に町民同士の連携もさることながら、身延町をはじめ周辺地域と連携をとって乗り越えてきた。写真にまつわるエピソードに、町内外関係なく隣人を思いやる気持ちが大切な事を改めて思い起こさせられた。（福澤恵美）

■ NEXT やまだらけ

76号特集（4月上旬お届け）

「春の台所仕事」
～山菜、野草を美味しく食べる～

もうすぐ春がやってきます。春は芽吹きの季節。山菜や野草がたくさん採れ、女性陣も台所仕事で大忙し。

次号では、町内でも料理上手と評判の、お2人のおばあちゃんに密着。お2人から教えていただいた、春の味覚、山の恵みを美味しく楽しむレシピを紹介いたします。お楽しみに！

読者の声

● 西山温泉で早川の蜂蜜を1ビン購入しましたが、ずいぶんと高価だなあと思いました。しかし、この記事を読んで納得。むしろ安いかもと感じました。こういう地元の生活を伝える情報は楽しい。お手伝いできることがあれば、ツアーを作ってください。見てみたい、やってみたい！（海老名市Uさん）

● 「蜂と暮らす」は素晴らしい。西洋ミツバチとの大きさ、収穫量、販売量等の比較に深まりが欲しいので、第二弾、第三弾を期待します。（品川区Mさん）

● 「蜂蜜」には毎日お世話になっています。「飼養」という言葉は慣れ親しんできましたが、今回は「？」と感じざるを得ませんでした。蜂を飼うのではなく、むしろ人間が養われているのではないか、などと思った次第です。毎回田舎暮らしもいいなあと思いながら、拝見しています。（さいたま市Yさん）

編集部：養蜂は、自然観環境の変化に左右され、安定的な生産が難しいのが現状です。しかし、だからこそ蜜に価値がありますし、採れた時の喜びも格別です。山で暮らす楽しさ、豊かさを実感する大切な生活文化として、これからも続いて欲しいなあと思います。

日新火災
日新火災海上保険 代理店
幡野保険事務所
〒409-3306
山梨県南巨摩郡身延町夜子沢4020
TEL 090-8014-1337
FAX 0556-42-3073

地域発展のお手伝い！地域の暮らしを守る！
邦 早邦建設株式会社
小幡治山工事
【本社】〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住 645-27
TEL.0556-45-3000 FAX.0556-45-2288
【生コンクリートプラント】TEL.0556-45-2700
http://www.soho3000.com/

ごきげんよう、おしりたんてい です。
小学校 低学年向け
定価：本体980円（税別）
ポプラ社 〒160-8565東京都新宿区大京町22-1
TEL03（3357）2212 FAX03（3359）2359

On sunny days we can see Mt. Fuji by Gekkado.
二十四節気手帳
24seasons Notebook
発売中です
雨宮 和久
月禾堂 TEL(0556)22-0445

私も早川町で大雪を体験した一人です。多くの方に助けられ、励まされました。その分、自分が助ける側に回った際は人一倍頑張ろうと思った事を記憶しています。そう思うと、決して辛いだけの日々ではありませんでした。生活が便利になった今日だからこそ、非常時に浮き彫りになる相互扶助。正直少し楽しみだったりもします。奈良田は今朝も小雪。そろそろ雪かきに出かけます。

山を覗けば宝の山
やまだらけ
発行元／フィールドミュージアム運営委員会
NPO法人日本上流文化圏研究所内
住 所／山梨県南巨摩郡早川町薬袋430 〒409-2727
電 話／0556-45-2160 ファクシミリ／0556-45-2268